

【P4V】 P4Vからグラフィディポを操作する

概要

P4Vバージョン2020.1以降、グラフィディポがビューマップされたワークスペースを操作できるようになりました。

これにより、クラシックディポとグラフィディポのビューマップを備えたワークスペースをP4Vから操作することができます。

⚠ 注意

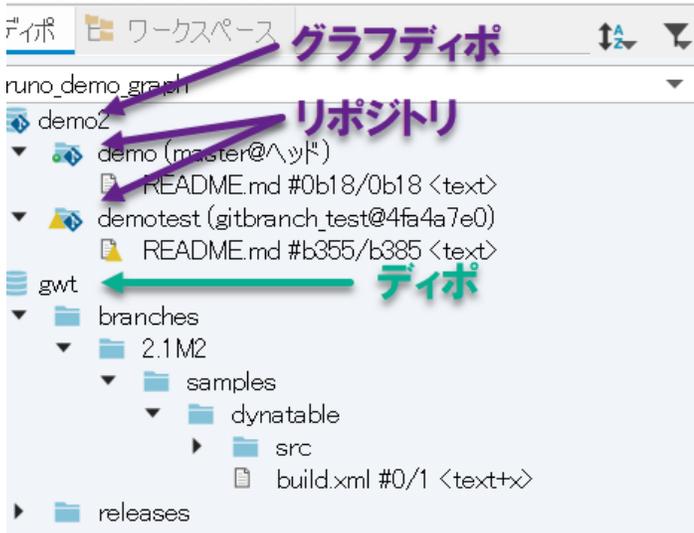
P4V2020.1上のグラフィディポは読み取り専用です。タイプ別動作の詳細としては以下の通りです。

- ・ writeableタイプのハイブリッドワークスペース：グラフィディポファイルは読み取り専用
- ・ graphタイプのハイブリッドワークスペース：ワークスペース内の全てのファイルが読み取り専用

説明

writeableタイプのハイブリッドワークスペースを使用した場合、[ディポ]タブ上では以下のように表示されます。

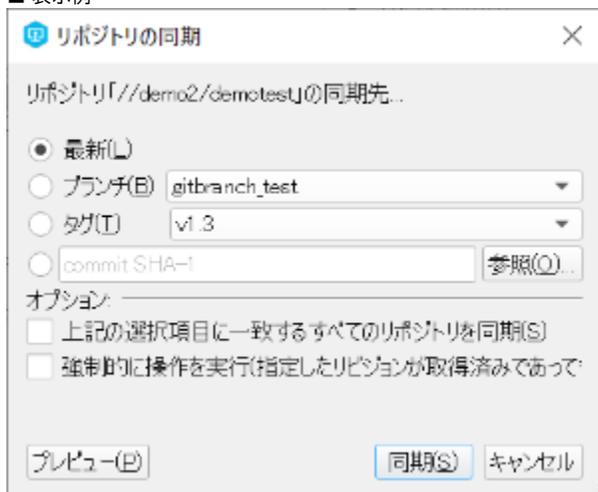
■ 表示例：グラフィディポとクラシックディポ



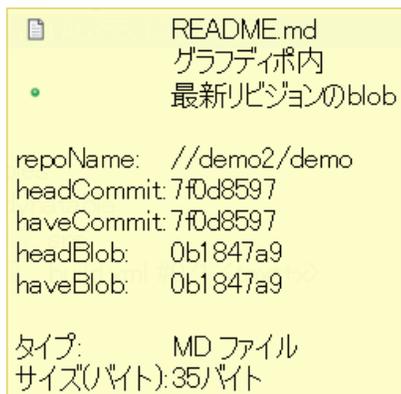
グラフィディポからファイルを取得する際は、以下の項目を指定してファイル取得を行います。

- ・ 最新：最新リビジョンを取得
- ・ ブランチ：指定したブランチの最新リビジョンを取得
- ・ タグ：Git側のタグに紐付いたファイルを取得
- ・ commit SHA-1：コミット時の"commit SHA-1"を利用してファイルを取得

■ 表示例



グラフィコ上のファイル情報は次のように表示されます。



- ・ repoName : 対象ファイルを含むリポジトリの名称
- ・ headCommit : 最新バージョンファイルに紐づくコミット-SHA1
- ・ haveCommit : ワークスペース上のファイルに紐づくコミット-SHA1
- ・ headBlob : 最新バージョンのファイル内容に紐づくSHA1
- ・ haveBlob : ワークスペース上のファイル内容に紐づくSHA1